

---

# 湖畔に花咲く

秋山夏生

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

湖畔に花咲く

### 【Nコード】

N5440Z

### 【作者名】

秋山夏生

### 【あらすじ】

ある少年は西村響子に告白する。その運命やいかに

？

(前書き)

習作ですが、どうぞ読んでみてください。

僕の心は水鏡のようだった。

自分も自分の考えも、全てがゆらゆらとぼやけてはつきりもしない。ただ湖面に、頼りない困り顔でつつ立っているのが映っているだけだ。なぜか。それは君が忙しくそわそわと風を吹かせるからなのだ。時に冷たく鋭く、時に心地よく優しいその風は僕の心の湖を波打たせる。

「お前、誰が好きなん？」

「何？急に」

深窓の令嬢とは彼女だ、という風貌の西村響子はまるでフランス人形のように恐ろしく整った顔をしている。そこらのアイドルや女優よりよっぽど綺麗な顔立ちだった。おまけにスタイルも良く、学校内で一番制服が上手く着こなせているように思われた。

「お前、あんな奴が好きなのか」

「いや、好きというか何というか」

「告白すればいいじゃん」

西村響子は大抵、一人でいるが特にクラスで浮いている風でもなく、話し掛ければ会話はできた。しかし、男子受けというか浮ついた話がなく、高嶺の花として扱われている。クラスの男子からも女子からさえお高い存在なのだ。大学生の彼氏がいるという噂もあるし、とにかく中学生に彼女と対等な人間はいないようだ。

「だって、振られたらいやだし」

「大丈夫、大丈夫。お前案外イケてるよ」

「からかってる？」

そんな西村響子にも唯一、毎日話す友人がいた。しかも男だ。名前は大倉力オル。女みたいに髪を長く伸ばした、甲高い声で話すクラスの嫌われ者だ。大倉力オルはいつもどこでも西村響子にくっついて歩き、冷たい反応にもめげず一緒にいた。ある生徒が罰ゲームで西村響子に告白するはめになったことがあったが、その時でさえ一緒にいたがり、しょうがなく木陰で見物客と見学をさせた。大倉力オルに何をするかしつこく聞かれた奴は繊細を教えた。すると奴は西村響子に向かって

「絶対、うんっていつちや駄目だからね」

と念を押していた。彼女はこくんとうなずいた。結果、男子生徒は振られたらわけだが、それは大倉力オルの注意は関係なく西村響子のただの意志だったはずだ。西村響子は大倉力オルがいなくてもそうしただろうからだ。

「ねえ、ちよつといい？」

「何？」

「ちよつと、好きなんだけど」

「“ちよつと”？」

「いや、何ていうの。何か君の全部が好きなのじゃくて、ちよつと」

「おいおい、あいつ失礼なこといつてるぞ」

「あちゃー、あれはまた振られるな」

「“ちよつと”何？」

「君のちよつとしたところが、好きなのかな？」

西村響子はため息をついて大倉カオルを見つめた。

「私に聞かないで。で、何かしら？」

「じゃあ、好きです、君が。…これでいい？」

西村響子はため息をついて、再び大倉カオルを見つめた。ただ普段見せない微笑みで頬を赤く染め、照れ臭そうに僕を見つめた。

「大倉くん」

「は、はい？」

「それって告白？私と付き合いたいなの？」

教室が彼女の一言で一瞬凍ったようだった。だれしもが西村響子と大倉カオル、いや、僕を交互に見比べた。張り詰めた空気はそれを作り出した西村響子が壊した。

「あの、とても恥ずかしいのだけど」

「い、いやうん…」

「ごめんなさい、無理だわ」

湖畔に花咲く季節だと思っていたのは僕の勘違いで、いつのまにかその季節は過ぎ去り、冬が到来していた。湖は凍り、水鏡に映っていた僕はいまはつきりとしていた。そう、それは意志も考えも鮮明になった瞬間だった。

とういわけで僕は死にます。  
皆さん、さようなら。

20\*\*・\*/\*\* 遺書 大倉力才ル

(後書き)

台詞を独立したものにしたいくて、文章と台詞にはあまりつながりがないようにしてみました。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5440z/>

---

湖畔に花咲く

2011年12月18日11時52分発行